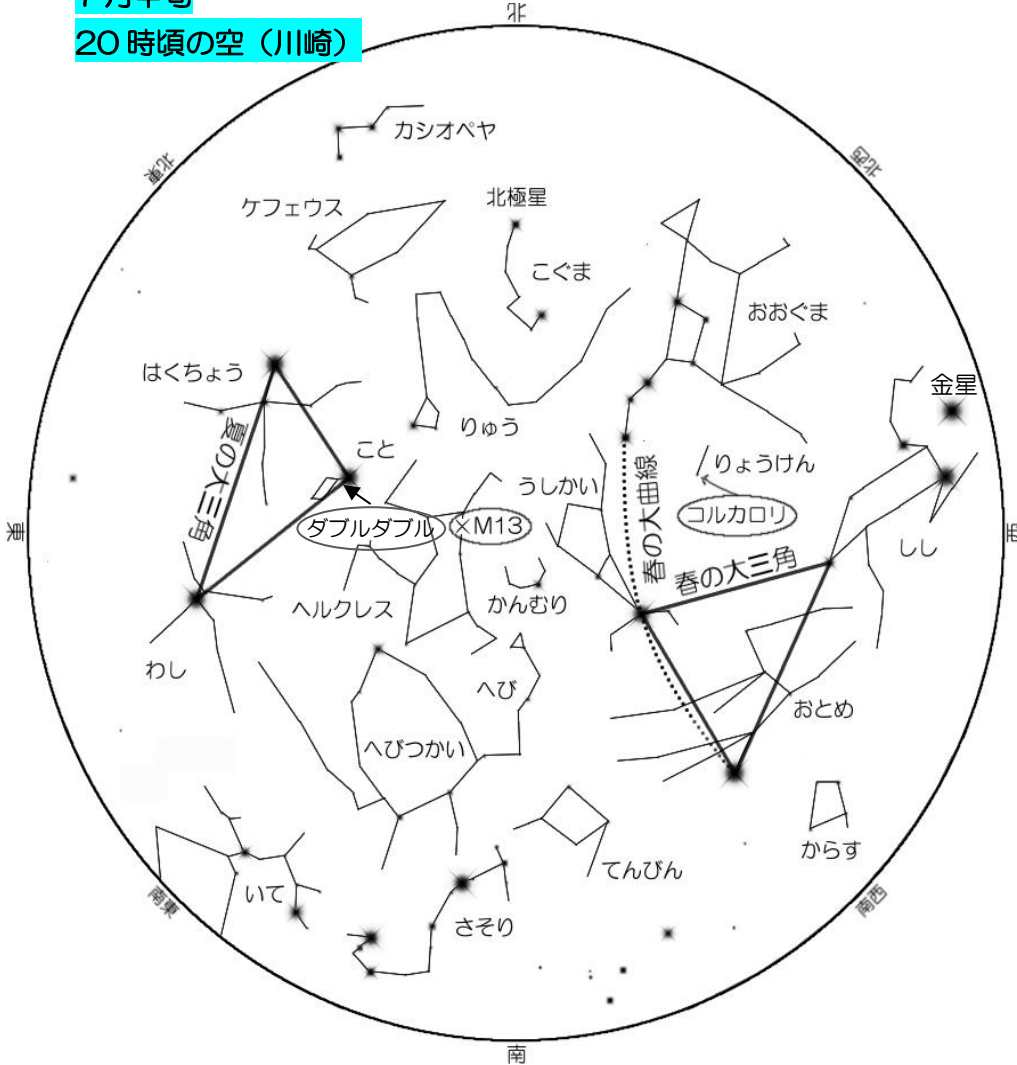


星を見るタベ

*このリーフレットは科学館天文サポーターの協力により作成しています。

7月中旬

20時頃の空(川崎)



7月の星空

暑さが一段落した夕暮れ時、日の入り後すぐ西の低空に「宵の明星」金星が明るく輝きます。空が暗くなってくると、東の空に、こと座のベガ・わし座のアルタイル・はくちょう座のデネブを結んでできる夏の大三角がよく目立ちます。ベガとアルタイルはそれぞれ七夕伝説の「おりひめぼし」と「ひこぼし」とされます。さて、残るデネブははくちょう座の「おしり」ですが、京都府北部には「あまのがわぼし」という名で呼ぶ地域もあります。

夕涼みをしながら、おりひめぼし・ひこぼし・あまのがわぼしを眺めてみましょう。

★これからの天体現象★

- 7月24日 満月と土星が接近
- 7月30日 みずがめ座δ南流星群が極大 (1時間あたり3個程度)
※天の川が見えるような暗い空で!
- 7月31日 下弦
- 8月 2日 土星が衝
(太陽と正反対の位置になる・明るく見やすい)
- 8月 8日 新月
- 8月11日 夕方西の空で月と金星が接近
- 8月13日 未明にペルセウス座流星群が極大
(前後数日が多い流星が見られるチャンス)
- 8月14日 旧七夕



7月の観察天体(予定)



M13 (球状星団)

ヘルクレス座にある球状星団で、数十万個の恒星の集まりです。北半球から見ることで見られる球状星団のなかでは最も明るく、望遠鏡では星が密集した美しい姿を見ることができます。空の暗いところでは肉眼でも確認でき、ヘルクレスの腰のあたりにぼんやりとした光としてとらえることができます。

コル・カロリ

りょうけん座の α 星は北斗七星の近くにある3等星です。コル・カロリはチャールズの心臓を意味し、イギリスの天文学者エドモンド・ハレーが名付けました。低倍率の望遠鏡で分離して見える二重星です。

ダブルダブルスター

こと座といえば夏を代表する星座ですね。明るく輝く1等星のベガのすぐそばにある ε (イプシロン)星は、望遠鏡で見ると何とも不思議で美しい姿を見せてくれます。低倍率では2つの星(ダブル)、さらに倍率を上げると、それぞれがさらに2つの星(ダブルとダブル)に分離して見えてきます。



ぷりんのひとことメモ

みんなは暑中見舞いって知ってるかな？

暑中見舞いは、夏に出す手紙のことなんだ。

でも、暑中って何だろう。小暑から立秋の前日までを言うのだけど、実は、小暑や立秋は太陽の動きから決まるんだ。だから、毎年同じとは限らないんだよ。

今年の小暑は7月7日、立秋は8月7日。立秋を過ぎたら残暑見舞いになるから注意してね。



☾インフォメーション

「星を見るタベ」は、まん延防止等重点措置の期間延長に伴う本市行政運営方針に従って、以下の日程を中止といたします。

7月10日(土)、7月24日(土)、8月7日(土)、
8月14日(土)、8月21日(土)

ご理解くださいますよう、お願いいたします。